

「八岐の大蛇」 皇紀二千六百年を中心として、こどもに語る神話が多く発表されました。私共も古事記をもとにして、書記を参考として試作いたし、屡々語りきかせて居ります。何れにしても、中心は素戔嗚尊の沈著冷静な御計略と豪毅な御性格、御行動であります。此の點を心にしつかり入れて話す事によつて殊更たく必ずとも、戦時下に於けるるべき心構へを植ゑつける事になると思ひます。

「雪の御殿」 季節にびつたりしないお話をですが、暑い時の清涼劑に、お話の大變可愛らしい所から入れました。此は當日本幼稚園協會にて近く談話集第二を出版する時に入れるのであります

が、「幼兒に聽かせるお話」にも載つて居ります。大雪の降つた朝、冬雄さんは雪のこども達と橇に乗つて雪の御殿に遊びに行きました。そこでは何もかも氷、雪です。眞白な着物の雪姫様を中心とした遊びは大變愉快です。頂くアイスクリーム、牛乳、お汁粉、何でもコチ／＼に凍つてゐます。冬雄さんは夢中で一日を樂しく遊び暮し晩方四頭の白熊の曳く橇で歸つて來たといふお話です。實際行かずとも、口に入れずともお語ぶりによつて涼しい思ひがする事であります。

最後に、此の一學期間かうして書いて參りましたが、大體去年夏出版の保育案、而も年少記に據つてゐる只今の時勢からは何かもの足りないものがあります。併し翻つて考へてみますと、一々お話を時局精神と聯繫させるのも十分俯に落ちぬ點がありま

す。そこで私は時局精神涵養の一助にもと、「...さんの懇問文」といふ題で只今試みて居ります。つまり或る兵隊さんとある幼稚園児が懇問文のお話によつて仲良くなり、手紙をお互ひにやりとりしてあるこいふ形式に於てあります。兵隊さんの側からは戦局の發展と戦争の模様を、こどもの側からは日常生活の様子を語らせ、こどもとして今とるべき態度、將來なるべき姿を示唆するのです。果してかういふ方法がいいものか疑問であります。が時局とお話をいふ事を始終念として居られる皆様の御教導を仰ぎたく存じます。

手

技

及川 ふみ

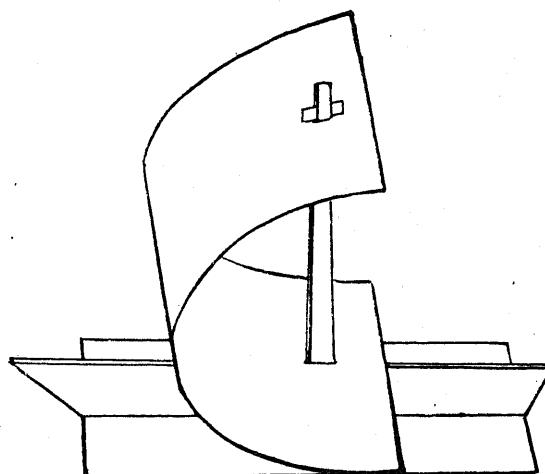
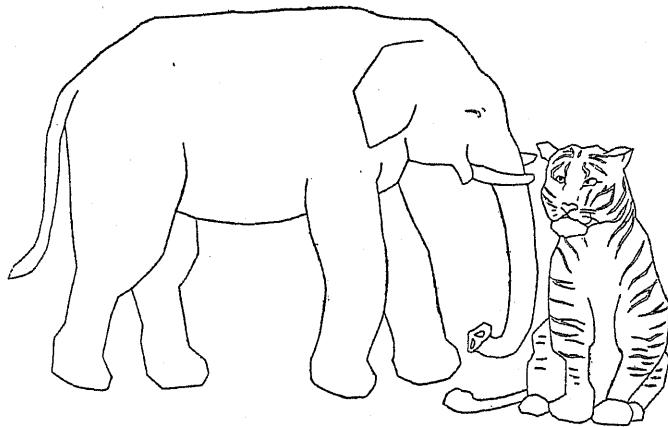
鉢仕事

動物のきりぬき數種(畫用紙)

幼兒の親しみ深い動物、象、猿、キリン、熊、虎、ライオン、などの數種を贋寫判りすりに用意しておいて、その輪廓を切りぬく、この時動物の繪はその動物そのものゝ特徴を充分にあらはすといふ事は勿論であるが、又一方幼兒たちがこれをきりぬくのに適當な線の屈曲である事も考へて畫くことが大事である。きりぬいた動物をそれ／＼の色にぬるか、或は動物はそのままにしておいてこれをはつた帖面の臺紙をぬるかいづれかにする。

部分は中央帆柱に三ミリ位の幅を、二つ折の端までにしてその他他の部分は切り落してしまふ。

帆は半紙を幅 四センチ半、長さ、九センチ位に切つて帆の中



帆かけ船(古はがき)
古はがきを縦を二つ折にする。輪でない方を両端一センチ半幅に折目をつける。折目の線上に簡単な船の形を画く。船の上の
中央上下に帆柱を通すだけ細く切りこみを入れて、帆柱にさしこむ様にする。上の部分だけ帆がぬけない様に小さい止めをさしこんでおく。
これを幼児にさせるときには、船底になるはがきの両端の一セ

ンチ半の印と、舟の中央の帆柱の部分だけ印をつけておいて船の形は任意に塗かせるとよい。一センチ半の水面は青く、船べりと帆柱とは茶色にぬる。

金魚鉢と金魚(古はがき)

金魚は、古はがきを二つ折にして背ひれが輪のところになる様に簡単な金魚の形を書き切りぬいりて、表裏のある立體的の金魚を作る。色は赤くクレヨンでぬる。

金魚鉢は三枚の端書で作る。

はがきの周囲を一センチづゝ折つて四角に切り目を入れて、一センチの深さの箱をつくる。箱の内部は水色のクレヨンでぬつておく。この箱は金魚鉢の底と天井にするために同じ箱を二つ作る。次に底の上に立てる柱を四本つくるのであるが、はがきを縦に四つに折つて切りはなし、各々一本づゝを又二つ折にして両端一センチだけ切り目を入れて一センチ四角を重ねて箱の上下につける。ノリシロをつくる。柱も箱と同様に内部を水色でぬつておく。四本の柱を箱の四角にたて、糊の乾いた頃に又天井をつける。二つの金魚を糸で天井から吊すのであるが糸を長短三様にしておく。底にみぞり色の紙で水草をつくつてはつておく。

提燈(七夕用のほうづき提燈)

はがきを縦を二つ折にして、植木鉢同様に両端一センチづゝをのこして一センチ幅に切りこみを入れる。色は提燈の上下の部分は黒くその他は赤くぬる。心の部分は縦一四センチ一ぱいに、横は半分四センチ半に切つて外と同様に赤くぬる。心は半センチのノリシロで筒をつくり、外側の上下一センチの部分を糊ではりつ

ける。口に線をつけて色紙短冊などを交ぜて籠に吊すと可愛らしい。

粘土

おまんこの材料になる野菜で、幼児たちの作りやすいものならば何でもよい。きうり、なす、かぶ、大根などがよいかもしれない。新聞粘土は普通の粘土にくらべて永くもつて遊ぶのにこれなくてよい。色が鮮明に出て氣持がよいなどいろいろの長所がある。

作り方

雨の日などの様に外遊びの出来ない時に幼児たちの仕事に新聞むしりをするとい。破けたものや、しほになつて他に使へない様なものを作りこむつて水にひだし、流しの様なところでたゞいて柔かくする。新聞紙、全紙一枚位を一人分とする普通の粘土を輿へる位の分量になる。三十人一組分として三十枚の新聞紙に二十錢位のふのりを水二三合で煮て、柔くついた新聞紙のおだんごによく交ぜる。この時新聞のおだんごはかたく握つて水氣を充分に切つてからふのりと交ぜるのである。

ふのりが少ければ新聞がばらーとなり形が出来ないし、又ふのりや水氣が多ければ出来上つたものゝ形がくづれるからその加減に注意しなければならない。

粘土(自由製作)

七月も中旬から暑氣も強くなつて来るから風通しのよい木陰へ机など持ち出して、粘土製作など度々するとい。砂場などで粘土で作った箱庭道具を使って遊ぶこと等面白い思ひつきである。

自然物おもちゃ

木陰で遊ぶことから思ひつくのは草木の葉、茎、花などいろいろの遊びも出来る。八ツ手の落葉や弓矢をつくり、朝顔の花で染め汁を作つて遊んだり、芋の葉などでもいろ／＼のおもちゃが出来て遊びに使へる。保姆が落ちてゐる木の葉を拾ひあげ鍼で何か幼児の前でよろこびそうなおもぢやを作つてゐるのを見たる幼児たちも自然にこんなものについての関心が出来てきて、自分でも又いろ／＼のものをつくる様にもなる。又そんな目的でなくとも單に幼児一同にいろ／＼と自然物のおもぢやを作つてやつてもよい。ことに自然の中にしてしまふ機會の少い都會の幼稚園では保姆が心がけて、つとめて自然物で遊ぶやうな手技をとり入れて指導しなければならない。

誘導保育

菊池ふじの

五月から次々と誘導保育を試みで來ました。誘導保育は特別手がかかるといふではありませんけれども、それでもその日その日出來上つたものを持つて歸るといふ方法よりは、全體としてのまとまりとか、個人の充實指導とか、或は個人の指導に當つて居る時の他の子供等への心配りとか、そう言つた心勞が必要りますので、やはりかなり心的に重い負擔ではあるのです。

七月となれば暑さは暑し、午前半日だけの保育時間にもなりますので、かたゞ保育先生の息抜きにも、今月は誘導保育の豫

定は致さないことにします。丁度七日の事變記念日があり、七夕祭りがあり、又第一學期最終の集りがありますので。

七夕祭り 栗の花咲く頃、あの籠の葉に綺麗な五色の色紙で、短冊や、着物等を拵へて、下げた頃の記憶が微かな匂ひをもつて蘇つて來ます。實際、人工的美麗の何物をも持たない田舎で育つたものには忘れられない行事の一つでせう、尤もこの七夕祭りは、地方によつては殆んどしない所もあり、名物として誇つてゐる所もありまち／＼ですが、行事そのものが幼稚園的であるせいか、民家では餘り見られないこの東京に於きましても、國民學校、初學年、幼稚園などで、さゝやかながらも缺かさずに行つてゐるやうです。

さて、こういふ時局になりまして、物の無駄といふことを極力避けなければならない時に、程度にもよりますが、いろ紙を相當に使ふこの七夕祭りをしたものか、それとも包み紙利用、厚紙利用などをして廢物利用の七夕祭りをしたものかと、迷ひますが、それは各々の氣持によつて如何様にしてもよいことだと思ひます。色紙と廢物利用混淆も時局柄どうでせう。

短冊はいろ紙や無地の包み紙などで、吹流しはいろ紙で。あみはいろ紙包み紙、きものなどは厚紙を切つて、いろ紙で模様を貼りなさして。

そして色紙や短冊には、繪や字を書いて七夕様に上げると技術が上達すると昔から語り傳へられてゐることをも話して、子供に出来る程度のことさせざる。姓名を書かせてもよし、兵隊さん有り難うと書かせてもよし、繪を描かせててもよし。

こうして出來た色紙、短冊、吹流し、着物、あみ、提燈(その他ふら／＼人形、星等何でもきれいなものは下げる)などに、こより